

令和 2 年



県と市町の情報ホットライン

かがわ

vol.
109

発行●(公財)香川県市町村振興協会 監修●香川県政策部自治振興課
HP●<http://chousonkai.or.jp/shinkou/publication/>

まちづくり最前線/高松市

My Town

松盆栽の生産量日本一の高松市に「高松盆栽の郷」誕生!

株式会社ゴーフィールド 代表取締役 皆見 省史さん

Top Message

危機感とチャレンジ精神で心動かすメッセージを

地域の元気印/土庄町淵崎

People

淵崎村里づくり推進協議会



土庄町淵崎の歴史や文化を継承しその魅力を発信することで、小豆島の「おんばた」(淵崎港周辺)から町全体に、さらには島や県全体へと元気を広げて行きたいと活動続ける「淵崎村里づくり推進協議会」のみなさん。
この日は、「淵崎おんばたふる里美術展」のお世話をするみなさんが「おんばた」に集まってくれました。



高松市



「盆栽」をテーマに高松市の魅力をPR

松盆栽の生産量日本一の高松市に 「高松盆栽の郷」誕生！

高松の「松」を市の魅力として国内外にさらに発信するために「高松盆栽の郷」基本構想を策定した高松市。2020年春には市内国分寺町に拠点施設「高松盆栽の郷」がオープン。コロナ禍に負けず着実に前進する「高松盆栽の郷」をご紹介します。

行政、JA、地域が一つになって

高松市の鬼無町と国分寺町は、約二百年の歴史を誇る盆栽作りの郷。それぞれに素晴らしい技を誇ってきました。以前は管轄のJAも違い、行政区も分かれていましたが、合併をしたことで、行政、JA、地域が一つになり盆栽産地の持続可能な発展を目指すため2017年に「高松盆栽の郷」基本構想が策定されました。「高松盆栽をキーワードにする」ことで、産地としての一体感も強まり、盆栽も市の名前も国内外にPRすることができると基本構想について語ってくれたのは高松市農林水産課の寺川係長です。

4つの基本方針

寺川係長の説明によると、「高松盆栽の郷」

基本構想には4つの基本方針があります。

一つ目は「国内需要の拡大」。盆栽は年配者の趣味というイメージがあるので、若い世代に愛好者を増やす取り組みが必要。また、コロナ禍で海外販路を広げて行くのは難しい現状があるため、国内需要の拡大がますます重要です。

二つ目は「輸出の拡大」。世界各国に盆栽の愛好クラブや団体があり、世界的に「BONSAI」という言葉も認知され、鉢の中で大自然を楽しむという趣味が世界各国で共感の輪を広げています。最近のニュースとしては、EUで黒松盆栽の輸入が解禁されました。管理の仕方なども含めて普及を行い、さらなる輸出拡大に取り組みます。

三つ目は「産地基盤の強化」。盆栽の世界でも後継者不足が大きな課題。その対応と

して、海外も含め県内外から後継者を募り担い手育成に取り組む「盆栽の匠」という研修施設も整備されました。研修生が高松に根付いてくれるのが一番ですが、「高松盆栽を各地に広める役目も担ってくれます。

四つ目は、その全てを総括して情報発信をする場所「高松盆栽の郷」づくり。昨年度、JA香川県を中心に施設整備を行い、今年4月にオープンしました。これまで別々であった国分寺と鬼無エリアの盆栽生産者が一つになつての組織づくりが行われ、施設を中心に愛好者を増やす取り組みが始まりました。「高松盆栽の郷」は、即売所としての役目を担っていますが、研修室も備えてあるためツアー客も含めて団体の研修を受け入れることが可能。つまり、盆栽を見て、体験して、買うことができる施設



左から、高松市創造都市推進局産業経済部農林水産課の寺川泰裕係長、川東愛主事。高松市創造都市推進局文化・観光・スポーツ部観光交流課の小西佑季主事、齋藤直樹観光政策係長。



JR国分駅から東へ約1km、県道33号高松善通寺線沿い。広い駐車場があり、建物内には研修室もあります。
『高松盆栽の郷』…高松市国分寺町国分353-1 電話:087-874-2795 営業時間:8時30分～17時／定休日:年末年始



イベントの様様をライブ配信した「高松盆栽の郷フェスタ」。展示即売会のみならずデモンストレーションやお手入れ方法も紹介されました。また、ネットと連携して盆栽のオークションも行いました。入場時にオリジナルバッジをプレゼント。



売場面積は約5千平方メートル、常時約1万点の作品が展示され、好みの盆栽を手に入れることができます。



「盆栽deポンジュール」クラウドファンディング型ふるさと納税制度を活用して誕生した盆栽の映像作品。監督は国内外で注目を集めた盆栽たいそうを手掛けた香西志帆監督で、主演は「たか松BONSAI大使」の大里菜桜さん。



です。何より一番の特徴は盆栽のプロが常駐しているということ。買い物もお手入れ方法も、的確なプロのアドバイスをその場でもらうことができます。

観光施策の重要拠点

「観光の視点でいえば、まちあるきは有力なコンテンツです。盆栽園と盆栽畑がつながっている風景は世界においてここにしかないもの。これを大いに利用し情報発信したいと考えています。その拠点となるのも高松盆栽の郷」と観光政策においても重要拠点と力説してくれたのは観光交流課の齋藤観光政策係長です。高松まちかど漫遊帖実行委員会や高松観光コンベンション・ビューローが実施するまちあるきのツアーメニューの一つとしても鬼無や国分寺を巡るコースが必ず入り、共に着地型の観光商品として、PR助成を行っています。

情報発信の取り組みとしては、高松市の観光サイト「Experience Takamatsu」に、鬼無・国分寺エリアが松盆栽の聖地であることを紹介し、生産者さんのインタビューを掲載したほか2018年度からは、話題づくりになり情報が拡散する「クラウドファンディング」を利用し、盆栽のPR動画も制作しました。盆栽のポスター展開も行っており、最初は県内外を走るトラックの荷台などに

貼っていたがPRしましたが、後に観光ポスターとしても作成し、東京モノレールや京急電鉄に掲載しました。また、首都圏の若い女性向け旅行雑誌などに盆栽関連の記事を掲載予定であり、これまで盆栽の情報をリーチできていなかった層にも雑誌等の広告媒体を使ってPRしています。

豪華な旅のアイテム

高松商工会議所においても会員企業と連携して「THE FIRST BONSAI EXPERIENCE 高松だからできる盆栽体験」という取り組みを行っています。これは、盆栽のみならず例えば、高級料亭茶事や和食コースを楽しむなど、盆栽+αの体験を組み合わせる事業ですが、市としては課題となる販路開拓において旅行業者等との連携機会を設定するとともにコンテンツの情報発信においても協力しています。

また、国内外のインセンティブツアー（企業の報奨旅行）なども大いに視野に入れ、アフターコンベンションやエクスカーションでも活用できないかと模索しています。三密を避けるコロナ禍で個人旅行が今後ますます加速すると予想されますが、現在の消費者行動を見据え、屋島、栗林

公園、玉藻公園などを組み合わせた豪華な旅行を高松で楽しんでもいただき、最後に盆栽を買っていただくのが理想です。

今年はコロナ禍で国内需要に傾注していますが、終息すればこれまで以上に海外への販路開拓に力を入れる必要があります。また、イベントなどをオンラインで行う取り組みを展開していますが、商談会をオンラインでできないかとの方法も模索しているところです。実際の販売は業者の方が行いますので、それを後方支援するのが市の役目です。

コロナ禍の対応で新たなコンテンツを発見した「高松盆栽の郷」。高松の盆栽は、さらに魅力的な高松市の産業資源、観光資源として育って行くことでしょう。



「高松盆栽の郷」には、手頃な盆栽から樹齢を重ねた見応えのある銘品まで展示・販売されています。

香川の先進企業の力を探る **あの人に会いたい！**

株式会社ゴーフイールド

代表取締役

皆見 省史さん

世の中にはさまざまなメディアがあり、情報があふれています。その中でより多くの受け手に情報を伝えるためには、人の心を動かすようなメッセージが必要です。行政の方々は守りに入ってしまうことが多いのではないかと思います。危機感を持ち効果を見据え、常にチャレンジ精神を持って新たな情報発信を模索しなければならない時代です。

「自然との共生」を経営理念の一つに掲げ、創業当時から海ごみ問題に取り組み、また人間も自然の一部と捉えて人に優しい職場を追求してきた株式会社ゴーフイールド。紆余曲折を経て、香川県に腰を据え「地域貢献」を掲げる株式会社ゴーフイールドの皆見省史氏にお話を伺いました。





リモートワークの社員が増え、カフェをイメージしてリニューアルした本社フロア。



県道12号三木国分寺線沿いにある株式会社ゴーフィールドの本社。

■経営理念をお教えください。

端的に言えば「自然との共生」と「地域貢献」です。

創業者は海ごみの問題に向き合ってきた人物で、創業期から環境活動に力を入れてきました。弊社では人間も自然の一部と捉え、社員の働きやすい環境づくりも、ある意味自然との共生と考えています。

企業経営とは、「社員と家族の幸せと地域貢献のための利益を得ること」と教わってきました。弊社のビジョンとして「香川県の企業、行政、個人などすべての方々の情報発信力、ネットワーク力をパワーアップさせる」を掲げています。仕事を通じての地域貢献のみならず、雇用の創出、納税を通して常にも地域に貢献できるゴーフィールドでありたいと願っています。

■事業内容や取組内容についてお教えください。

大きく二つあり、一つはホームページの制作、運用保守を主な事業として展開しています。最近では取材、撮影、ライティングといったコンテンツマーケティングや動画制作にも力を入れています。新型コロナウィルス感染症の流行以降はインターネット通販や非対面

型のオンライン商談、マッチングなどの相談も多数受けるようになりました。

もう一つは自社でのインターネット通販です。一般消費者との取引、BtoCに対応できないという製造業者さまもおられ、弊社で商品を仕入れて販売し始めました。県内にEC（インターネットを利用した小売りビジネス）を構築する企業は多いと思いますが、実際に自社で販売を行っているのは弊社ぐらいではないでしょうか。自社サイトでの試みを参考に、サイト制作や広告運用だけでなく、受発注の対応、梱包発送といったオペレーションからクレーム処理までサポートできるのが弊社の強みです。



株式会社ゴーフィールドが手がけた「県産品ポータルサイト LOVE さぬきさん」と「かがわの『里海』づくり～海辺のおでかけマップ～」。

■社名の由来をお教えください。

アウトドア好きのメンバー6人が集って創業し、当時はウェブサイト制作に加えてアウトドア情報メディア、EC、ガイド事業なども手がけたいという希望があり、「野に行く＝GO FIELD」という社名に決定しました。今ではインドアなメンバーも増え、バラエティに富んだ組織になりましたが、「常に新しいフィールドに挑戦していく」という意味を込め、「株式会社ゴーフィールド」という社名を大切にしています。

■2000年の設立以来、今日までの道のりをお聞かせください。

創業当初はまだウェブ制作会社が少なかつたこともあり、順調に売上を伸ばしていきました。4年目に大阪、5年目に東京に営業所を開設、岡山や沖縄にサテライトオフィスを設けたり、大連にオフショア開発の会社を立ち上げたりとチャレンジ的な経営をしていました。大規模な仕事も手がけ、良いことも悪いこともありましたが、地元のお客さまを大事にご支援させていただこうと決意し、現在は香川県に腰を据えて頑張っています。

サイトを制作する上で大事にしていることをお聞かせください。

お客さまのお困り事を解決し、成果の出るウェブサイトの制作を一番に考えています。もちろんお客さまのご意向やご意見を尊重した上でのことですが、何が一番の施策、解決策なのか、プロフェッショナルとしてこちらからまず提案しなければいけないということです。「どうしましょうか?」は禁句です。お客さまのお困り事解決が目的といいながら、お客さまを回答に困らせるようでは良い仕事をしたとは言えません。「はい」といいえを繰り返していたら、いつの間にか立派なウェブサイトにできていた」と言われるのが理想です。

自治体が行う情報発信について改善点などお教えてください。

書き手の思いや人柄などが想像できる情報の方が読みたくなり、成果も上がります。書き手のキャラクターを全面に押し出すのは自治体さまでは難しいと思いますが、読み手を楽しませるという視点で情報発信をなさった方が、成果が上がり、みなさんハッピーになります。

難しい!という場合は、プロフェッ

ショナルとしてノウハウを持つ弊社にぜひともご相談ください(笑)。

今後力を入れて取り組みたい分野をお聞かせください。

具体的な商材としては、個人的には動画制作とライブ配信です。動画は情報伝達の幅が格段と増えますし、問い合わせや購入といったコンバージョン(ECサイト上で獲得できる最終的な成果)にも大きく寄与します。コロナ禍で対面型の商談や採用活動ができずに困っているお客さまをたくさん目にしていますので、ライブ配信を使いなんとかご支援できないかと考えています。また、香川県、四国のみなさまの販路拡大に貢献できるような仕組みを構築したいと考えています。社長就任前まではネット通販を担当していましたので、これまで培ったノウハウを還元していきたい。実際にいろんなパートナーさまと協力しながら少しずつですが実現に向けて準備を進めています。

令和元年度「かがわ働き方改革推進大賞」を受賞されたご感想をお聞かせください。

働き方改革は2011年から10

近くの積み重ねなので、受賞は非常に感慨深いものがありました。昔は徹夜も常で、こんな働き方ではないけないと気づき、会社としてあるべき姿に向けて少しずつ成長してきました。大きなきっかけは2011年前社長が子どもを連れて会社に来たことです。それから、子育て中のパートが続々と子連れ出社をするようになり、これが社風になりました。やがて、良い人材が集まるようになり、業績も上がってきました。



子連れ出社で社内の雰囲気も良くなりました。高松市「素敵にたかまつ女性活躍企業認定」、香川県「子育て行動計画策定企業認証」も受けました。



香川県「かがわ働き方改革推進大賞」最優秀賞を知事から受け取る森田 桂治会長。

働き方改革を推進する上で課題となる担当者不在時のカバー体制についてお教えてください。

まず一つのポジションに2名以上の人員を配置します。その上で、有給休暇取得に際しては、時間単位での取得も可能で、夏季休暇などは特に期間を決めず自由に取得できます。ウェブ制作グループ、運用保守グループでシフトを共有し、お客さまには有給休暇取得前に事前にお伝えして、その間は代理のメンバーが対応します。お客さまとの専用のML(メーリングリスト)を作成し、メイン担当以外にも関係する複数の社員を登録しておき、返信が遅くなっている場合など声を掛け合って漏れないようにしています。

テレワークは、3年ほど前に結婚退職して県外に移住するという社員のために始めました。当時、他の社員はテレワークには向かないと思っていたようですが、コロナ禍で強制的にテレワークにしてみると、仕事の効率が上がったという社員が多く、出社を許可してからも半数はテレワークを選択しました。外からの電話は担当者との携帯に転送し、光熱費と電話代などのテレワーク手当を支給して負担のないようにしています。社内の情報共有もメールや電話は原則使用せず、

Slack*を使っているので、それぞれのタイミングでアクセスできる非同期型でプロジェクトを進行するように心掛けています。どうしても同期型、対面での打ち合わせが必要な場合はZoomやLINEなども活用しています。

会社の将来像と目指すべき社長及び社員像をお聞かせください。

お客さまの事業における転機に携わり、問題解決を通してお客さまのブランディング、マーケティングに貢献し、高収益で成長し続ける、香川に無くてはならない企業を目指しています。社員も社長も変化を恐れず、新しいこと、面白いことにチャレンジしつづけることが理想像。「こうあるべき」という発言は控え、自由に発言できる社風を心掛けています。

社長で自身、休日はいかがお過ごしでしょうか。

昨年から、体力づくりとダイエットを兼ねてジョギングを始めました。毎日続きますが、平日は5キロ、休

日は10キロほど走るように心掛けています。家族とのキャンプが最近は楽しみの一つ。海は庄内半島、山は塩江のキャンプ場によく出かけています。楽しみといえば、当社で行う海浜清掃なども楽しい催しです。若い社員も最初は誘われて仕方なくかもしれませんが、創業者の会長はネイチャーガイドを目指したほどで、話も面白く興味をそそられます。帰る頃には参加して良かったと思います。また新たな人を誘って参加してくれます。ボランティア行事にも楽しさは必要です。



海ごみ問題への取り組みとしてクリーンアップ活動を行うとともに、全社員が持つロゴ入りのMYバッグ、MYボトル、再生紙封筒を利用するなど環境問題にも取り組んでいます。



本誌を読む自治体職員に向けて、一言お願いいたします。

香川県や高松市のブランディングは

強みを分析し、リソース集中して情報発信されています。ご担当者さまもとても熱心に取り組まれており、逆に勉強させてもらっています。

自治体さまの場合、守りの体制を求められることも多いかと思います。私の場合、物事にチャレンジする際の心掛けとして前向きな話でも後ろ向きな話でも、「これをすれば、こうなる」という結果や効果をまず自分なりにしっかりと見据えて話し合いに臨みます。必要な意見には耳を傾けますが、そうすれば、自分の主張や提案を、筋を通して説明でき周囲を説得できます。



皆見 省史 (みなみ・しょうじ)

香川県出身 (香川県高松市在住)
昭和52年2月18日生まれ 43歳

平成12年 3月 龍谷大学経営学部 卒業
6月 有限会社ゴーフィールド 入社
平成15年 5月 株式会社ゴーフィールド
取締役就任
平成26年 11月 同社 取締役社長に就任
令和 2年 6月 同社 代表取締役に就任

現在に至る。

本社所在地 香川県高松市川島東町293-5

PROFILE

また、常に危機感を持つことが大切だと思います。言い過ぎれば職場が暗くなってしまうかもしれませんが、例えば「いつまでもこの状況や仕事は続かないよね」というふうに危機感をあおります。すると、新しいアイデアが出てきます。新型コロナウイルスの影響は長期に渡るとしています。政治、行政の助けなしでは経済は上向きません。我々、中小企業の力を信じて資金的なご支援や制度づくりをお願いします。

*Slackは、アメリカのSlack Technologies社のビジネスチャットツール。チャンネルというグループチャットの機能があり、メッセージに閲覧ややりとりをすることができ



政策部政策情報通信産業振興室
主任 板東 辰倫

新たなオープンイノベーション拠点 「Setouchi-i-Base」が誕生!

情報通信関連産業の新たな拠点

香川県では、県外に流出している人の流れに歯止めをかけ、人口の社会増につなげるため、若者に魅力のある情報通信関連産業の育成・誘致に取り組んでいます。

これを受け、11月7日、サンポート高松にある情報通信交流館[※]とびあ・かがわの5階部分を改修し、新たなオープンイノベーション拠点として「Setouchi-i-Base」がオープンしました。

施設・設備の紹介

共同オフィスや学習スペース、いわゆる「コワーキング・コラーニングスペース」を約110席整備しているほか、3Dプリンターやレーザーカッターなどを共同利用できる「創作工房」、遠方との会議やビジネスマッチング等を行うことができる「TV会議室」、さらには、次世代通信技術を活用した試作品づくりが行える5G通信環境等を整備しています。

人材育成事業について

特徴的な講座として、IT分野で活躍するうえで土台となるプログラミングスキルを身に付け、未経験から即戦力のエンジニアを育成

する「かがわコーディングブートキャンプ」を11月8日から開講しています。

また、AI技術を基礎から応用まで体系的に学ぶことができる「かがわAIゼミナール」やIoT技術を活用し、課題解決に資する試作品まで制作する実践的な講座「かがわIoTゼミナール」のほか、情報通信関連産業に関する先端技術セミナーなど順次開講しており、Setouchi-i-Baseを拠点として、デジタル人材を育成する豊富な講座等を提供します。

魅力的な拠点機能

Setouchi-i-Baseとは、利用者の様々な相談に応じ、アイデアを新たなビジネスにつなげていくことを支援する専任のコーディネーターを配置しています。

また、県内外の有識者等で構成するアドバイザーチームを組成しており、本県に縁があり、様々な専門性を有するプロフェッショナルな方々にご就任いただいています。それぞれのネットワークを活用するなどして利用者の課題解決に向けた支援を行っていく予定です。

Setouchi-i-Baseの利用は会員

制で、一般個人会員月額8,000円を基準として、法人会員や学生会員など、利用される方のニーズに沿った多様なプランを用意しています。

人が集い、学び、交わり、共創する、オープンイノベーション拠点をコンセプトに、新たなプロジェクトが始動します。先端技術の活用等を企図する市町の皆様はもとより、県内外の企業や住民の皆様にも、是非ご活用いただきたいと考えています。



写真:「Setouchi-i-Base」

市町からの



令和2年9月28日には自治体における標準準拠システムへの移行までの工程も公表され、令和7年度末までに、住民記録システムをはじめ、基幹17業務について標準準拠システムへの移行が義務付けられることが想定されています。今回はこの「自治体システム標準化」について説明します。



構築・発展させてきた結果、その
発注・維持管理や制度改正対応な
どについて各自自治体が個別に
対応しており、人的・財政的負担が

以上の自治体については、同一事業者のシステムを利用する自治体間でもシステムの内容が異なることから、LGWAN等の共通プラットフォーム上のサービスを利用する方式への移行の妨げとなっています。

さらに、自治体ごとに様式・帳票が異なることが、それを作成・利用する住民・企業・自治体等の負担に繋がっています。

自治体の情報システムに係る重複投資をなくして標準化・共同化を推進し、自治体行政のデジタル化に向けた基盤を整備していくことが必要とされており、令和2年9月11日には住民記録システムについて標準仕様書第1.0版が公表されました。今後、その他の基幹系情報システムについても標準仕様が作成され、各自自治体においては、これらの標準仕様に基づいたシステムへの移



人口規模等に関わらず、全ての自治体が対象となります。

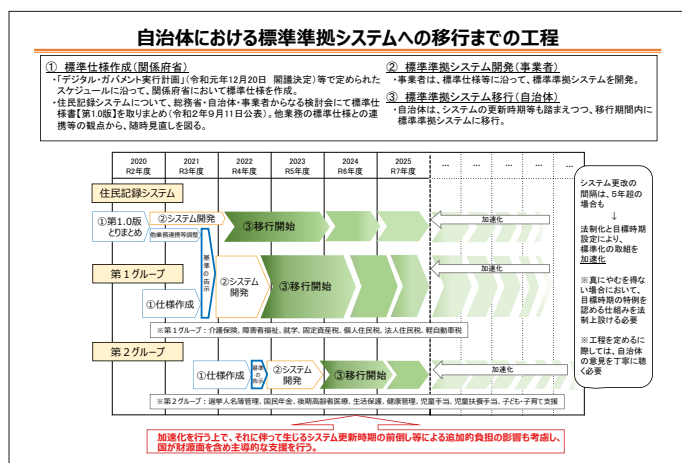
A 自治体目線のメリットとしては、カスタマイズが原則不要となることによる**ベンダ等との調整コストの削減**や、システムの共同

よる導入・維持管理や制度改正時の負担の削減等が挙げられます。

住民・企業等のサービス利用者
目線のメリットとしては、全国の
自治体における手続き内容が統一
されることで、**手続きの簡素化や
合理化が図られること**等が挙げら
れます。

A 真にやむを得ない場合に
おいて、目標時期の特例を
認める仕組みを法制上設ける必要

 システム更新時期の前倒し等に対する契約変更等により、自治体において移行のための経費が増嵩していくことが見込まれることによる追加的負担の影響も考慮し、国が財源面を含め主導的な支援を行う、とされています。具体的な措置内容については今後の検討の中で示されると思われます。



第32次地方制度調査会の 答申について(其の二)

著：香川県政策部自治振興課

第二 地方行政のデジタル化

次の3つの節で構成される。

- (1) 基本的な考え方
- (2) 地方行政のデジタル化と国の役割
- (3) 取組の方向性

(1) 基本的な考え方

- ・ 2040年頃にかけて生じる変化・課題に対応するためには、国・地方を通じた行政のデジタル化を進めることで、新たな時代にふさわしい環境を整えることが喫緊の課題である。
- ・ 国・地方を通じて行政手続のオンライン化は十分に進んでいるとは言えず、地方公共団体における自治体クラウド、AI等の導入やオープンデータの取組も更なる広がりが必要な現状にある。
- ・ 地方行政のデジタル化を実現するためには、国・地方に共通する基盤の活用、情報システム等を効率的・効果的に整備するシステム面での対応や専門人材の確保を含めた人材面での対応が必要となる。

(2) 地方行政のデジタル化と国の役割

- ・ 国には、共通して活用可能な基盤やツールの提供、条件不利地域も含めた地域におけるデジタル化に必要なインフラの整備促進を早急に進めていくことが求められる。

- ・ 地方公共団体の事務の標準化・統一化の必要性や地方公共団体の創意工夫が期待される程度に応じて、国は適切な手法を採るべきである。

(3) 取組の方向性

- ・ 国・地方を通じた行政手続のデジタル化

行政手続のデジタル化を進めるに当たっては、住民目線に立った利便性向上を第一に、マイナンバー制度の活用とマイナンバーカードの機能発揮を通じた更なる普及を図り、国と地方公共団体が協力して行政手続のデジタル化を推進すべきである。

- ・ 地方公共団体の情報システムの標準化
- 基幹系システムについては、シス

テムの機能要件やシステムに係る様式等について、法令に根拠を持つ標準を設け、各事業者は当該標準に則ったシステムを開発して全国的に利用可能な形で提供することとし、地方公共団体は原則としてこれらの標準準拠システムのいずれかを利用することとすべきである。

- ・ AI等の活用
- Society 5.0におけるAI等の最先端の技術の導入については、今後各地で開発、実装される先進的かつ汎用的な取組を見出した上で、それを共同利用につなげる必要がある。

国としては、まずは自主的な共同利用への人的・財政的支援といった、地方公共団体の自由度への影響が小さい手法によってAI等の技術の開発を促進しつつ、幅広く活用すべき技術については全国的な利用を促進することが考えられる。また、利用者に対する情報提供等に関して、団体横断的に行われることが望ましい分野については、国が共通

プラットフォームを提供すること
も考えられる。

・人材面での対応

地方行政のデジタル化を進める
上で、国は、地方公共団体におい
て、専門人材の広域的な確保、職
員に対するオンライン等での研修
機会の充実、外部人材による適切
な相談・助言が可能となるよう
支援していくことが考えられる。

・データの利活用と個人情報保護
制度

効果的・効率的にサービスを提供
するためには、組織や地域の枠
を越え、官民が協力して、相互の
データの利活用や、アプリケー
ション開発等の取組を進めること
が重要である。そのため、公共
データのオープン化等によるデー
タ利活用環境の充実も求めら
れる。

第三 公共私の連携

次の3つの節で構成される。

- (1) 基本的な考え方
- (2) 公共私連携・協働の基盤構築
- (3) 共助の担い手の活動基盤の強化

(1) 基本的な考え方

・地域社会においては、これまで、
主として家庭や市場、行政が
担ってきた様々な機能について、
コミュニティ組織、NPO、企業
等、多様な主体が、組織の枠を
越えて、サービス提供や課題解
決の担い手としてより一層関
わっていくことが必要である。

・多様な主体が地域社会を支える
担い手として役割を果たして
いくための環境整備が重要で
ある。また、地域の多様な住民
に開かれた取組にしていくな
ど、継続的に活動していく上
で必要な人材、資金、ノウハウ
を十分に確保できるよう、組織
的基盤を強化していくことが重
要である。

(2) 公共私連携・協働の基盤構築

・市町村は、行政サービス提供の
役割を担うとともに、積極的
にプラットフォームを構築してい
く役割を担うことが期待される。
・地域社会における多様な主体
の連携・協働の基盤として、人材
が組織の枠を越えて地域社会
で活躍できるような環境の整備

が重要である。

(3) 共助の担い手の活動基盤の強化

・共助の担い手の活性化や持続
的な活動基盤の構築のために、
市町村は、多様な住民が継続
的に活動に関わるための仕組
みづくりや、人材、資金、ノウ
ハウ等の確保へ向けた支援等を、適
切な手法を組み合わせながら、積
極的に行っていくことが求めら
れる。

・具体的方策として、地縁法人
制度の再構築と、人材・資金に
ついて3つの取組、①地域人材の
確保・育成、②外部人材の活用、
③活動資金の確保・多様化が
考えられる。

・地縁法人制度については、簡便
な法人制度としての意義を維
持しつつ、不動産等を保有する
予定の有無に関わらず、地域
的な共同活動を行うための法人
制度として再構築することが
適当である。

・①地域人材の確保・育成
地域人材の世代交代が円滑に
行われる人材確保・育成の仕組
みを構築すること、定年退職者

や若者、外国人など、地域にお
いて活躍の場を求める住民の
多様な層が地域活動に参画する
機会を創出すること、行政実務
や政策に通じた地方公務員が
地域活動に参画することが考
えられる。

・②外部人材の活用

コミュニティ組織の事業展開に
対応して、運営上のノウハウの
取得、団体間の連携のコーディネ
ットに関し外部人材からの
支援を受けることは有用である。

・③活動資金の確保・多様化

市町村業務の委託やコミュニ
ティセンター等の指定管理者と
しての指定等によって自主財源
の涵養を促していくほか、地域の
実情に応じて柔軟に活用できる
交付金の創設、ふるさと納税や
クラウドファンディングの手法を
活用した資金確保の環境整備
など、自主性・主体性が発揮で
きるような手法により支援を
行うことが考えられる。

(第四以降の内容については、次号に続く)

香川の まち歩き

讃 岐鉄道株式会社が、1889（明治22）年5月23日、多度津を起点に丸亀～琴平間（15.5キロメートル）で営業を始めたのが四国における鉄道の始まりでした。今回は、四国鉄道発祥の地であり、江戸から明治にかけて文明開化の繁栄を築いた多度津町を「たどつまち歩きの会」会長の中津榮一さんのガイドで巡ります。

※讃岐鉄道に先立つ1888（明治21）年に伊予鉄道が松山～三津間の営業を開始していますが、軌道が狭く簡易な軽便鉄道と呼ばれるものでした。現在の四国鉄道網に直接つながる第一歩は多度津の地から始まりました。



四国鉄道発祥の地を巡る 多度津町



「四国鉄道発祥之地」のモニュメントは、発祥の地である旧多度津駅跡から発祥100周年の際に、現在のJR多度津駅前に移転しました。



金倉川に架かる鉄橋の橋脚は1889（明治22）年の讃岐鉄道発祥の時代から使われているフランス式のレンガ積み。



JR多度津駅前に立つと目に飛び込んでくるのは、一抱えもある大きな車輪。1967（昭和42）年頃まで、四国の山野を駆け巡っていた蒸気機関車の動輪です。駅舎の傍らには、蒸気機関車のタンクに水を入れるための給水塔とその先には方向転換に使う転車台



多度津町民会館前の「四国鉄道発祥之地」の石碑と隣に立つ中津榮一さん。博学とマラソンで鍛えた健脚とで、楽しく興味深いガイドをしてくださいました。

（いずれも国の登録有形文化財）も残され、給水塔の近くには昔ながらの食堂も店開きしています。まずは多度津駅のホームから高松行きの普通列車に乗り込みます。まち歩きでありながら、列車を利用するのが多度津ならではの趣向。乗車は一区間のみ、隣の「讃岐塩屋」で降車し、讃岐鉄道時代の遺跡などをたどりながら、通常は立ち入れないJR四国唯一の車両工場である多度津工場にまで足を踏み入れるという貴重なコースです。

JR讃岐塩屋駅の上を通る道路陸橋に上がり、西に進み金倉川に架かる鉄橋を訪ねます。今し方乗った列車が通過した鉄橋の橋脚をのぞくとレトロなレンガ積み。これはフランス式の工法で132年も働き続けている現役の橋脚です。川の西岸には丸亀藩京極



多度津町立資料館には、北前船や多度津藩にまつわる資料のほか、讃岐鉄道の旧駅舎の模型など四国鉄道発祥にまつわる資料が展示されています。



多度津藩の陣屋跡として、蔵や屋敷、水堀の跡が残されています。



讃岐鉄道時代の廃線跡は住宅街にあり、今は知る人も少なくなっていました。



多度津港や旧多度津駅のにぎわいが伝わる明治時代の引き札(広告)。(多度津町立資料館所蔵)



讃岐鉄道開通に尽力した、「多度津七福神」の一人景山甚右衛門の胸像。

家の別館であった池泉回遊式の大名庭園「中津万象園」が広がり、その南の線路の脇には殿様にお茶を出すための「中津御用井戸」がありました。

続いて、田園地帯から住宅地への境界付近で確認したのは、現在の線路から分かれるように続く讃岐鉄道の線路跡。地元では「てつどう道」と呼ばれている廃線道です。明治時代の讃岐鉄道は、港近くにあった多度津駅に向かい、そこからほぼ直線に南下し琴平に通じていました。しかし、後に予讃線などのルートを考慮し、桃陵公園がある多度津山を避けるようにして、1913(大正2)年に駅は現在の場所に移されました。その廃線道をたどり、足利義満が上陸したとの記録も残る「堀江」の地を抜け多度津市街へと入ります。

江戸の昔、多度津には藩の政治を執り行う陣屋があり、「家中」と呼ばれる一帯には武家屋敷が立ち並んでいました。そうした屋敷跡の案内を伺いながら、当時は海辺であったという測候所の前を通り、山陽鉄道時代の名残をとどめる境界石や陣屋の蓮堀跡を確認し、多度津藩士であった浅見家の屋敷跡である「多度津町立資料館」に立ち寄ります。

館内には北前船を分かりやすく説明した展示があり、関西圏から北海道まで商売をしながら巡ったことで、巨万の富を蓄えた人々がいたことを知りました。それはやがて、「多度津七福神」と呼ばれた豪商となつてこの地にいち早く文明開化の恩恵をもたらしたのです。その一人景山甚右衛門は横浜で鉄道を見て、1888(明治21)年讃岐鉄道株式会社を設立。多度津港に立派な駅舎を建てました。当時は停車場と呼ばれた駅の模型や写真など貴重な資料が展示されています。いよいよクライマックスは「JR四国多度津工場」です。この工場は讃岐鉄道発足と同時に車両修繕を行う



JR四国の車両が次々と運び込まれる多度津工場。ここで車両点検及び修繕を行い、四国の線路に帰っていく。

目的でスタートし、現在も鉄道車両の検査や修繕などを行っています。敷地内では、1888(明治21)年に建築された建物をはじめ7棟の国の登録有形文化財を見学することができ、修繕中の車両のレアな姿を見ることもできます。鉄道ファンならずとも、興奮が止まらない多度津工場でした。

誌面ではわずかな紹介となりましたが、ガイドの中津さんをはじめ資料館や多度津工場においても、讃岐鉄道の裏話や多度津藩の歴史、北前船の解説、多度津七福神の繁栄ぶりなど貴重なお話の数々を伺うことができました。歩きごたえ、聞きごたえのある「たどつまち歩き」です。



JR多度津工場で最後に修繕した蒸気機関車C58333。

「たどつまち歩き」の会 問い合わせ先

中津 栄一さん ☎0877-32-6961

多度津町観光協会 ☎0877-33-1116

※JR四国多度津工場の見学は、原則15人以上で1~3カ月前までに事前予約が必要です。

香川の自治に新しい力 New Face

はじめまして

丸亀市
広聴広報課
森望さん



■目指す人物像は？

市民の目、職員の目から広い視野で日々の課題や目標に取り組める人になりたいです。

■丸亀市のいいところは？

食べ物が美味しいところです。「さぬきのめざめ」や「飯南の桃」など、魅力的な地域産品で溢れています。

坂出市
産業課にぎわい室
藤田真吾さん



■今、熱中していることは？

車をよく洗っています。運転は上手ではないので、車と自分の腕両方を磨き続けたいです。

■坂出市のいいところは？

沙弥島や五色台のような景勝地がたくさんあります。きれいな景色を撮りたい方には是非お勧めです。

三木町
環境下水道課
岡野里奈さん



■あなたのチャームポイントは？

明るく元気なところです。いつも笑顔でいることを意識しています。

■三木町をこうしたい！

町民の方が安心して長く住みたくなるような明るいまちにしたいです。挨拶や声掛けなどを積極的にしていきたいです。

多度津町
住民環境課
久木田優基さん



■あなたのチャームポイントは？

安定感のあるトロロのような体型です。性格も温和なためか学生時代、クラスメイトからも「お父さん」と呼ばれていました。

■多度津町をこうしたい！

J.R.の分岐点という利点を活かし、更に生活の利便性を高めたいです。

三豊総合病院企業団
ICU・CCU
篠原佳那子さん



■あなたのチャームポイントは？

明るく元気なところです。1日1日を振り返り次の日明るく過ごせるように努力しています。

■企業団のPRをお願いします！

三豊総合病院は地域医療機関と連携し患者様に寄り添いながら患者様のニーズに合った信頼される医療を提供しています。

仲多度消防組合
消防本部
坂本和優さん



■今、熱中していることは？

筋力トレーニングです。消防職員として過酷な現場でも、最後まで職務を果たすためです。

■組合の仕事内容は？

火災・救急・救助全ての事案に出勤します。そのために、日々の訓練を欠かさず、120%の準備を心がけています。

小豆地区消防事務組合
小豆地区消防本部
堂本和樹さん



■目指す人物像は？

熱い気持ちと冷静な考えを持った現場で活躍できる消防士です。

■組合の仕事内容は？

ポンプ車隊員として火災現場や救助現場で活動することです。防災係として事務仕事も行っています。

香川県広域
水道企業団
山口千尋さん



■今、熱中していることは？

作曲です。音を紡いでここに一つしかない、自分の曲を作ることはとても楽しいです。

■企業団のPRをお願いします！

色とりどりの想いが詰まった明るい職場です。県民の皆様ライフラインを支えるため、日々業務に励んでおります。



小学生からシルバー世代まで世代を超えた作品が集まる「淵崎おんばたふる里美術展」。



淵崎の誇れるものを多くの人に知ってもらいたいと、大型のショッピングセンターの壁に淵崎を代表する歴史的な人物2人の屏風絵を会員の手作りで作成しました。



土庄町
淵崎

おんばたに輝くふるさと愛

淵崎村里づくり
推進協議会

(淵崎村里づくり推進協議会 葛西 孝通会長)

「おんばた」と呼ばれる淵崎港周辺には、素晴らしい歴史や文化が息づいています。かつて、瀬戸内海は物流のみならず文化交流の大動脈であり、小豆島はその要衝でした。中世以降は細川・豊臣・徳川の領地として支配を受け、江戸時代の「おんばた」



土洲海峡を舞台に海上にイルミネーションが輝き、子どもたちの夢を描いた「夢灯ろう」が灯ります。ヨットの上で、バイオリンの生演奏もされ、おんばたにバイオリンの音色が広がります。

絵画や小豆島の風景を描いた絵画を展示する「淵崎おんばたふる里美術展」を開催。7月には井上文八郎氏ゆかりの「井上観音堂夏祭り」。8月には「淵崎おんばたルミナリエ」。秋にはまちづくりの勉強のため研修旅行に出かけ、冬には

「小豆島駅伝競争大会」のお世話を行い、3月には「井上観音堂オリーブ茶会」を行います。その間に専門委員会なども開いていますが、令和2年度はコロナ禍で例年通りとは行かず、例えば「淵崎おんばたふる里美術展」は秋に開催しました。また、大きく変化したのは井上観音堂が老朽化のために取り壊されたことです。その代わりに美しい観音様は、令和2年6月にオープンした「小豆島博物館」にまつられました。同館は小豆島藤井豊文庫と小豆島美術館が合わさった協議会の手による私設の博物館で、小豆島ゆかりの画家の作品約160点や、80年以上続いていた地元紙「小豆島新聞」、また隠れキリシタンについての書籍なども集められています。新たな文化拠点を得て、ますますふるさとを元気に広げる「淵崎村里づくり推進協議会」です。

DATA

淵崎村里づくり推進協議会
☎090-7145-8008(葛西)

には豪商の屋敷や蔵が立ち並び活気にあふれていました。その歴史や文化を引き継いで、活躍した名士も多く、例えば井上文八郎氏は、大正時代に土庄の理想絵図(都市計画)を描いて、それを実現させました。そうしたふるさとづくりの意思を継ぎ「淵崎村里づくり推進協議会」は活動を続けています。

その活動とは、例年であれば4月に総会を開催。町が植樹した桜並木の管理を行い、花見もします。5月には地元ゆかりの



「淵崎村里づくり推進協議会」会長の葛西孝通さん。淵崎自治会おんばた会館のすぐ近くで葛西正商店を営んでいます。

市町等職員研修事業

市・町・一部事務組合等の人材育成を支援するため、
香川縣市町職員研修センター（公益財団法人香川縣市町村振興協会内）で研修を実施しています。

○市、町、一部事務組合等別研修受講者数（平成26年度～令和元年（平成31年）度）

（単位：人）	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元（31）年度
市	1,072	1,118	1,120	1,125	1,093	1,129
町	349	374	384	389	401	407
一部事務組合等	96	90	85	79	119	91
合計	1,517	1,582	1,589	1,593	1,613	1,627

※令和2年度は、受講人数、受講日数などを考慮したうえで、3密を避けて実施しています。

○各団体で実施する研修を支援する講師派遣制度もご活用ください！
図書、ビデオの貸出もしています。ぜひご利用ください！

研修にあたって

- 一、一生懸命に聴こう
- 一、研修を仕事に活かそう
- 一、ネットワークを広げよう

研修風景



※引き続き、参加しやすい研修体制づくりに努めていきますので、積極的にご参加ください。



★研修に対するご意見、ご要望をお寄せください!!

公益財団法人香川縣市町村振興協会
香川縣市町職員研修センター



宝くじのご購入は



フーちゃん



香川県内の売り場で!

この宝くじの収益金は市町村の明るく住みよいまちづくりに使われます。

宝くじ公式サイトで
宝くじを購入できる
ようになりました!

宝くじ公式サイトはコチラから



お得な特典、便利なサービスいろいろ! 宝くじ公式サイト会員登録ステップ

STEP1

「宝くじ公式サイト」を探索!
メールアドレスの登録
（仮登録）

「宝くじ公式サイト」を探索して、
宝くじ公式サイトの新規会員登録ページで
メールアドレスを登録（仮登録）します。

STEP2 会員情報の入力（会員登録）

- 入力いただいたメールアドレス宛に、メールが届きます。
- メールに記載されている会員登録用のURLをクリックします。
- 画面に従って、氏名や生年月日等の情報を入力いただく新規会員登録が完了します。

宝くじ売り場でポイントをためる/つかうための手続きは以上で完了

宝くじ公式サイトでのネット購入をご利用の方は、引き続き次のSTEP3の手続きをお願いします。

STEP3 決済情報の入力

ネット購入をご利用される方は、宝くじを購入するための「クレジットカード情報」および当せん金のお受け取りに利用する「口座情報」をご登録ください。

以上で、カンタン・便利な宝くじの「ネット購入」がご利用いただけるようになります!

本件に関するお問い合わせ先 宝くじコールセンター TEL 0570-01-1192（ナビダイヤル 有料） TEL 011-330-0777（有料）
受付時間 10:30～18:30（土・日・祝日、年末年始を除く）※電話番号を十分ご確認ください。印刷いたします。

公益財団法人 香川縣市町村振興協会